



Seven Rivers

富山県議会をわかりやすく。



<https://fujiidaisuke.com/>
電話：076-471-7119

セブン・リバーズの定期読者の申し込みは、右のQRコード or お電話で！……………>>>

[セブン・リバーズとは？]

富山平野を流れる、七大河川のこと。3000mの立山から深海1000mの富山湾に流れこむ急峻な七大河川の治水対策が、明治時代の富山県議会の大きな政治課題だった歴史を踏まえ、藤井だいすけ県政報告のタイトルにいたしました。



2023年の
県政どうなる？

P3

子育て・教育や
医療・福祉は
大丈夫？

P3

SDGsやDX、
どこまで進む？

P2

ウェルビーイングは
浸透する？

P2

新型コロナ対策、
いつまで続く？

P8

継続して
質問することの
意義と成果とは？

P4~7

【マンガ風でレポート】
藤井大輔の2022年の
議会質問を総まとめ！

1期目
4年間の
成果は？



もっと希望と機会に
あふれる富山に！

2023年が始まり、新たなチャレンジに取り組んでいる方も多いかと思います。気が付けば、2019年に県議会議員となつてから、4年が経過しようとしています。しかし、そのうち3年はコロナ禍でありました。地域の会合や、夏祭りや運動会等の行事もほとんどなく、地域の方々との交流の機会がめっきり減ってしまったことは、1期生議員として本当に残念でなりません。昨年8月から久しぶりに、コロナ対策をしながら県政報告会や戸別訪問を再開し、のべ2000人以上の方とお会いすることができました。

県政報告会では、できるだけ意見交換や対話に時間を割くようにしています。そこで聞ききた地域の方の声は、耳の痛いことも含め、実に切実に胸に迫るものでした。私の議員活動の原動力は、そういった地域の方々の声です。原点を忘れず、希望と機会にあふれる富山を目指し、2023年も頑張つてまいります。

の 富 山 県 政 は ど う な る ？

KENMIN NO GIMON

01

新型コロナ対策、いつまで続く？

政府は5類引き下げを検討も
医療体制のひっ迫が懸念

国の指針変更と

治療薬普及が

今後のキーポイントに

感染防止が社会経済の活性化か——この1年、国の新型コロナ対応は二転三転してきました。国が行動制限を国民に要請できるのは、新型コロナが感染症法上の2類相当に分類されているからであり、季節性インフルエンザと同等の5類に引き下げれば、行動制限する／しないの議論は必要なくなります。しかし5類に引き下げることには懸念を示す声も。5類になって感染拡大期に入った場合、病院がひっ迫して平時の医療体制が維持できない可能性や、ワクチン有料化で接種率が下がったり、必要な人が接種できなくなったりする等の懸念です。

県をはじめとした自治体にとっても、これまでのコロナ対策は基本的に全額国費（コロナ交付金）で賄われてきま

2類と5類の違い

	コロナ 2類相当	インフルエンザ 5類相当
国・自治体の要請	入院の勧告・就業制限 外出自粛の要請可	なし
検査・治療費	全額公費負担	公費負担なし
患者の報告	全数報告	基幹病院からの 定点報告

▲これまでワクチン接種の費用は全額公費だったが、5類になれば通常の医療費と同じような負担がかかってくる

したが、5類になれば自治体負担が大きくなり、自治体によって格差が生じることも。

富山県ではこれまでも、

社会経済活動を継続しながら医療体制を維持していく「ウィズコロナ」の考え方で運用していきました。とはいえ、地域の会合等は多くが自粛のまま。私たちが感染の不安を払拭し、コロナ前の状態に戻るためには「国の指針変更」「治療薬の普及」が鍵になるでしょう。

KENMIN NO GIMON

02

ウェルビーイングは浸透する？

幸福度を測る富山県独自の
“なないろ指標”が誕生

県民の指標の評価は

“賛否両論”だが

認知率向上には寄与

新田知事が就任されて2年が経過しました。「幸せ人口1000万人」ウェルビーイング先進地域、富山」をキャッチフレーズに富山県成長戦略を打ち出し、今年1月には県民の真の幸せを測る、富山県独自の「ウェルビーイング指標」を公表しました。幸せの全体像を花に見立て、7色の花びらなどで幸福度の高さを示すという意欲的な指標。知事は「県民一人一人が自分らしい花を咲かすことができるように、さまざまな施策を実行する。周囲の人間関係や地域とのつながりを含め、自分らしく生き生きと生活できる社会を目指す」と述べ、具体的な県の施策とリンクさせていくとのことでした。

この指標について、私の周囲の評価はまさに「賛否両

富山県のウェルビーイング指標



▲「さまざまな人や社会とのつながりの中で、色々な要素が結びつき影響し合って、一人ひとりの多様なウェルビーイングをつくる」との解説が

論。「理解できない」「個人の幸せになぜ県が踏み込むのか」「占いや相性診断のよう」といった声から「視覚的にわかりやすい」「真の幸せの意味が伝わる」の声まで、さまざまな意見が出ています。

「ウェルビーイング」という言葉の県民認知度は12%程度ですが、今回の指標で認知度の向上が期待されます。県民の理解がなければ、政策の実行力は乏しくなるので、今年が正念場と言えそうです。

だいたいが
皆さんのギモンに
答えます！



特集 2023年

KENMIN NO GIMON

Q3

SDGsやDX、どこまで進む？ 脱炭素とクラウド化が 加速することを期待

中小企業経営者が高齢化している中、技術革新が現場に根付くかが肝要

諸外国に比べGDPの停滞が長く続いている日本経済。その状況を打破するため、注目されているキーワードとしてSDGsとDXがあります。前者は気候変動等の地球環境の変化に対応した経済活動が、後者はデジタル技術で生産性を劇的に向上させる経済活動が、それぞれ求められます。そのためには、これまでの「大量消費大量生産」「年功序列」「上意下達」といった昭和ビジネスの価値観を打破し、破壊的かつ創造的なイノベーション（技術革新）が必要で、これは日本人にとって明治維新に匹敵する大きな変革だと言えるでしょう。

富山県でもデジタル技術を使った実証実験を積極的に推進する「デジボックとやま」等、イノベーションを支援す

キーワードの解説

SDGsとは？⇒「持続可能な開発目標」の意。2015年9月の国連サミットで決まった2030年に向けた国際目標。【S】Sustainable：持続可能な【D】Development：開発【G】Goals【s】：目標



DXとは？⇒デジタルトランスフォーメーション（Digital Transformation）の略。デジタル技術を浸透させ、多くの人の生活やビジネスをよりよいものへと変えていくことを指す

る施策を行っていますが、他県と比べるとまだまだ物足りません。その一因として、中小企業経営者の高齢化や後継者不足があげられます。このため最先端のSDGs経営やデジタル技術の情報を提供されても、それを現場に実装できていない。特に脱炭素やクラウド化は、どの職種においても変革の起爆剤となる重要な技術。富山県の経営者の思考がどこまで変われるのが、肝要です。

KENMIN NO GIMON

Q4

子育て・教育や医療・福祉は？ 異次元の少子化対策等に 必要なお金、どうねん出する？

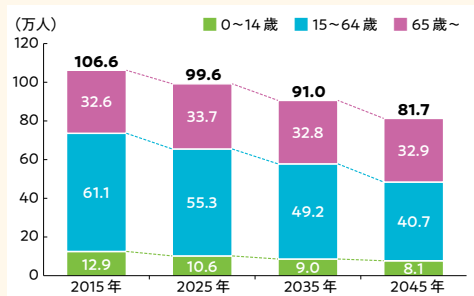
すでに予算120兆円を超えている状態。後世に借金しない体制を

社会保障といえば、年金・医療・介護の3点セットをイメージする方も多いですが、最近では子育てや教育の分野もこの観点で考えるべき、との流れになってきています。全世代型社会保障、という言葉がその象徴でしょう。

そもそも社会保障は、困ったことが起きた人を社会全体で支えるための制度。困っている人がいるなら、助けてあげるのが筋ではありませんが、現在は県民の大半が何かしら困難を抱えています。それを全部助けようとなると、膨大なお金が必要になってきます。つまり社会保障の問題は、どうやってお金をねん出するのかが、焦点になります。

すでに年金で60兆円、医療で40兆円、介護で13兆円、子ども関連で10兆円。合計

富山県の人口推移予測



▲約20年後（藤井が75歳になる）には富山県人口は80万人まで減少し、高齢化率も40%を超えるという予測に

123兆円にもなる巨額なお金が1年間で使われている。基本は保険料による支え合いです。負担が現役世代に集中してしまいうため、税金や借金も充てているのが現状。今後も少子高齢化が進むので、社会保障費は膨らむ一方なのです。

岸田内閣は異次元の少子化対策を表明しましたが、孫世代にまで借金をする状況は避けなければなりません。財源をどうするか、注目です。

の議会質問をダイジェスト！

〈富山県議会の主な質問機会と運用ルール〉

一般質問

本会議場で実施。質問者の持ち時間は20分。20分を一括でまとめて質問を行うか、分割して質問するかを選択する。答弁が不満足な場合、再質問、再々質問ができる。どんな質問を行うのか、事前通告が必要。

予算特別委員会

大会議室で実施。質問と回答を合わせて持ち時間は60分。一問一答方式で行われる。事前通告が必要。予算についてはもちろん、県政全般の質問ができる。

常任委員会

委員会室で実施。質問内容は、委員会に属する部局に限定される。事前通告の必要はないが、事前に質問内容を共有する場合が多い。富山県議会では5つの常任委員会が設置されており、藤井は教育警務委員会（教育委員会と警察本部）に所属。

議員の大切な仕事
それは「質問」です！



富山県武道館のPFI※導入の妥当性は？



※PFIとは公共施設等を民間の工夫で効率化する手法のこと

2022.03.11 予算特別委員会

藤井の質問数：17 問

主な質問：
県財政の健全化、官民連携、県庁の組織風土改革など

訪問医療・介護の際、警察官の同行は可能か？



1月27日に埼玉県で在宅医が銃殺された事件があったばかり

2022.02.18 教育警務委員会

藤井の質問数：5 問

主な質問：
GIGAスクール運営支援、警察と児童相談所の連携など



危険性や緊急性を判断し対応

中田生活安全部長

医療介護従事者の安全の問題は最優先で対応するとのこと

約6.2億円の削減効果が期待

このときは資材費の高騰などの影響は見込んでいなかった



助野地方創生局長

一人ひとりの主観的な幸福度の計測は難易度が高いとされる

富山独自のウェルビーイング指標化、どのように？



新田知事

県外に転出した女性にもアンケートをとりた



9月には県民5000名を対象に幸福度の意識調査も実施された

エモテット（※）等の県内の被害状況は？



※添付ファイルを開くと感染するコンピューターウイルスのこと

2022.03.23 教育警務委員会

藤井の質問数：6 問

主な質問：
県内の商業高校改革の重要性、サイバー攻撃への対策など

2022年で7件の相談あり



中田生活安全部長

あくまで警察相談の件数であり、実態はもっと多いのではないかと



転出・
転入双方の
学校間で
かなりの
調整が必要
徳島県など
導入自治体は
わずか

徳島県ではサテライトオフィス誘致や
移住施策と一体的に考えられている

水戸小中学校課長

デュアル
スクール(※)を
富山で導入する
場合の課題は？

※児童生徒の住民票を異動させないまま
転校することが可能となる制度のこと

2022.06.01

予算特別委員会

藤井の質問数：7 問

主な質問：
部活動の大会での新型コロナ対応、交
通違反の身代わり事犯など

2022.06.13

一般質問

藤井の質問数：16 問

主な質問：
コロナと物価高騰で疲弊する県経済
立て直し、県民のウェルビーイング向
上など

藤井大輔の知人の最新IPO事例

社名	上場時期	初値時価総額
KAIZEN プラットフォーム	2020年12月	180億円
ビジョナル	2021年4月	2545億円
エクサウィザーズ	2021年12月	816億円

※ちなみに上場までの期間は最短で5年、最長で14年

まずは
ロールモデル
となる
成功事例を
つくりたい

IPO(※)1社の
目標の意図は？



※Initial Public Offering
の略語。「新規公開株」や
「新規上場株式」を表す

新田知事からは2年間程度での上
場を目指したいとの答弁もあった

三牧知事政策局長

※行政手続を定
めた規程のこと。
原則、議会での
承認は必要ない

条例ではなく
要綱(※)で定めて
実施したい

パートナーシップ
制度の導入、
実施方法は？

R4年4月時点
で209の自治
体が導入。11
月には東京都
も導入へ

富山大学薬学部
の地域枠創設の
可能性について
も、後ろ向きな
回答だった

木内厚生部長

将来的には
薬剤師過剰に
なるとの
国の推計も

薬剤師不足に
抜本的な
対策が
必要では？

医薬品製造不正を
防ぐ査察にも、薬剤
師資格のある県職
員の増強が必要

県内の薬剤師の充足率

	H30	R1	R2
製薬企業	53.3%	48.5%	36.4%
公的病院	52.4%	60%	44.9%
行政(県職員)	100%	30%	50%

※いずれの業界においても薬剤師不足が顕著

ありがとう
ございました

お互い頑張ろう

新田知事

その他、県内私立高
校専願者や部活動を
理由とした県外私立
高校志望者も増加

近年特に、
県外に
本部を置く
広域通信制高校へ
進学する
生徒が増加

県立高校入試では、
2次募集終了でも
100名以上の
未充足に。
その要因は？

R4は14校20学科で192名の定員割れ。
H26から100名以上の未充足が続いている

2022.06.20

教育警務委員会

藤井の質問数：6 問

主な質問：
高等学校等就学支援金の県単補助額、
サイバー警察局との職務分掌など

荻布教育長

2022.09.06

教育警務委員会

藤井の質問数：7 問

主な質問：

県立高校特別教室への空調設置、豪雨被害での県警対応など



荻布教育長

この事態を受け、県は11月から総合教育会議を開催し、根本的な議論をスタートさせた

地元の学校の学級減は歓迎されるものではないが、総合的に判断した結果



ざわ

氷見高校・雄山高校が1学級減となることに市長・町長が反対する異例の事態に

ざわ

県立学校の定数減、氷見市・立山町から反対表明あったがどう対応する？



2022.09.16

一般質問

藤井の質問数：15 問

主な質問：

知事のリーダーシップ、用排水路の安全対策、行方不明者の捜索体制など



稲盛和夫氏(※)の経営哲学から、知事が学んだことは？

※京セラ創業者でありJAL 再建にも尽力した経営者。2022年8月24日にご逝去された



新田知事

※稲盛氏の私塾である盛和塾では、全世界で1万5000人の塾生が学んだとされる

盛和塾(※)富山の立ち上げに関わった人を育て、人を活かそうという考え方に心酔

8月の豪雨のような、都市型水害の対策は？



3

8月13日、20日に富山市を襲った豪雨では、私の地元である新庄地域でも溢水冠水が各所で見られた



4 土木部長

市町村公共事業の予算確保について国へ働きかける

県内には雨水貯留地や雨水貯留浸透施設など、都市型水害の典型である内水氾濫対策の先進事例があるとのこと



5

しまね留学(※)のように県外学生の受け入れを！

※生徒数減少で廃校寸前だった県立高校をV字回復させた取り組み。「地域みらい留学」という名称で全国展開が始まっている

県外生徒受け入れの宿泊施設の確保等の課題が



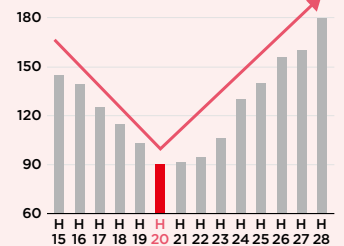
荻布教育長

現在、寄宿舎のある南砺平高校をモデル校として実施できないかを協議中

県外学生が廃校や過疎を救う？

島根県の離島にある隠岐島前高校をV字回復させた「しまね留学」。大都市圏の生徒と地元の生徒が混ざり合うことで、ともに刺激を受け成長する好循環が生まれ、かつ過疎の地域も社会人口の増加につながっている。すでに26道県で導入。なぜ富山県ではできない？

●島前高校の全校生徒数の推移

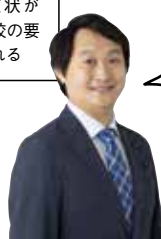


魅力化開始

起立性調節障害は単なる“さぼり”と誤認され、親子関係が悪化することも。最近の養護教諭会での調査研究テーマにもなっている

※自律神経の問題により、朝起きられない、午前中に頭痛や立ちくらみ等の症状が出る。思春期に症状が出やすく、不登校の要因のひとつとされる

起立性調節障害(※)によって学校に通えない児童生徒の数は？



山元食育安全班長

令和3年度で小学生57人、中学生121人、高校生69人が確認されている

2022.09.27

教育警務委員会

藤井の質問数：7 問

主な質問：

総合教育会議の設置目的、起業家育成のための教育、G7の警備体制など

富山県独自の
カウンセリング
指導員※の
配置状況は？



富山県独自の施策として
1988年から公立中学校に
教育相談専任の教員が配
置されている

2022.12.13 教育警務委員会

藤井の質問数：8問

主な質問：
学校医・学校薬剤師の役割、立山砂防
の文化的価値、直轄警察犬の導入など

近年はいじめや不登校に悩む生
徒が増えており指導員の役割が
さらに重要になっている

過去最多の34校に
配置されている



水戸小中学校課長

指導員への
相談件数は
約8100件で、
半数以上が
いじめと不登校

いじめ認知件数が
全国2番目に少ないのは、
他県に比べて取り組みが
消極的だからでは？



1000人あたりの認知件数が15.1
件で全国平均47.7件を大きく下
回っている。全国1位は山形県
の126.4件で富山県の8倍

2022.11.25 教育警務委員会

藤井の質問数：7問

主な質問：
不登校児童生徒への対応、SNSを活用
した警察相談、若年層の大麻事犯など

文科省はいじめの認知件数につ
いて「いじめを初期段階のもの
も含めて積極的に認知し、その
解消に向けた取組のスタートラ
インに立っている」と極めて肯
定的に評価している

児童生徒の
些細な変化にも
気づくよう
丁寧に対応したい



荻布教育長

藤井の質問数：

101問

〈内訳〉
一般質問 31問
予算特別委員会 17問
教育警務委員会 53問

地域の皆さんの声が
質問の原点に
なっています！



私が重視する県議の仕事は
議会での質問の「量と質」

2022年の議員活動を振り返
りますと、県議会の政務調査会
副会長の立場を拝命し、県内各地
さまざまな地域に行き、たくさん
の方々の声を直接聞かせていただ
きました。中でも、教壇に立つて
直接高校生と民主主義について語
り合う主権者教育出前授業では、
未来ある富山の高校生たちの本音
に触れることができ、たくさんの方
の刺激をもらいました。

と9月に併せて31問、予算特別
委員会は2月に17問、それぞれ
質問いたしました。コロナ物価
対策、医療福祉教育人材の不足
都市型水害対策や官民連携・ス
タートアップ施策について、新田
県知事をはじめ部局の皆さんと
付度なしで議論ができたのではな
いかと思います。また、官民連携
やスタートアップでは、これまで
の人脈の中から富山県に適した
人材を紹介したり、実際の会議
に参加したり、私自身も現場感
覚を大切にしながら協働させて
いただいています。

県議会では、教育警務委員会
に所属し、8回の委員会開催で
53問の質問をいたしました。教
育委員会には、主権者教育や教
育のDX化、不登校児への支援
や県外留学の是非について。また
警察本部には、サイバー攻撃や
信号機更新などの交通安全対策、
警察の機能強化について。質問で
きる機会があるときには必ず、事
前調査をしてから質問を行いま
した。

県議会議員にはいろんな仕事
がありますが、私が重視してい
るのは質問の量と質です。2022
年は101問、メディア等にも
取り上げてもらった機会もたくさん
ありましたが、まだまだ勉強が不
足しているとも痛感しております。
論点を明確化し、課題を洗い出し、
どうすれば突破できるのかを考
え、失敗を恐れず実行に移す。そ
ういった姿勢で、2023年も頑
張ってまいります。

総括

2022年の議会質問を振り返って

だいすけ独自解説が読める！

「藤井だいすけ公式 LINE」

登録いただければ、メモ魔
の藤井が議会中にとっている
議事録や、藤井の独自
視点での解説をアップしま
す。県政報告誌のセブンリ
パーズや、オリジナル動画
もご覧になれます。



<https://lin.ee/AsXqb5A>



議会の中継動画が見られる！

「インターネット議会中継」

本会議の生中継がスマホでどこでも見られま
す。また録画中継では、直近の富山県議会の本
会議および予算特別委員会の録画映像を、次
の定例会招集日前までご覧いただけます。



<https://toyama-pref.stream.jfit.co.jp/>



議会の議事録が検索できる！

「会議録の検索と閲覧」

過去の県議会の会議録が検索できる便利なサ
イト。平成6年からの本会議・予算特別委員会、
平成12年からの政策討論委員会、平成13年
からの委員会の会議録が登録されています。



<https://www.pref.toyama.dbsr.jp/index.php/>



スマホやパソコンで
もっと県議会を身近に！

「県議会、どうでしょう!？」

第9回 / 1期目4年間の成果は？

県議会には摩訶不思議なできごとや出来事がいっぱいあります。
そんな県議会の不思議に新人議員の藤井だいすけが、
さながら潜入取材のごとく体験レポートをお届けいたします。
思わぬ本音が漏れることも？



県議会議員の任期は4年。2019年に初めて県議になった私も、1期目が終わろうとしています。では県議会を通じて、この4年間でどんな成果があったのかを振り返ってみたいと思います。

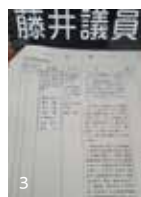
私が4年間で行った質問は約360問。その中でも最初に取り組んだのが「認知症対策の強化」で、関連する質問は30問以上になります。その中で「認知症のひとと家族の会」の方と一緒に2つの請願を取りまとめました。特に、認知症行方不明者の県内全域で差が生じないように求めた昨年11月定例会の請願では、自治体による損害賠償保険制度等について、県が市町村との会議で議題にすることに賛同されました。

次にスタートアップをはじめとした起業支援も数多く質問しました。前職のリクルート時代に新規事業を担当していたこともあり、事業に直接投資するよりは人や環境への側面的支援をすべきであると考え、私が持つ起業家脈を富山県につなげています。

次に高校での教育改革です。2021年に教育警務委員会の所属となってから、若者の投票率向上や県外学生の受け入れ、不登校やいじめへの対応等を質問してきました。特に、若者の投票率については県議会議員が自ら教師役となる出前授業を実施。

これまで5回教壇に立ちました。昨年12月には県立高校で初となる南砺平高校での授業も実現。さらに全国でも珍しい事例として都道府県議会議長会の研究交流大会に登壇しました。

継続して質問していくためには、議員として、テーマを掘り下げるための勉強や現地取材が欠かせません。また県職員の皆さんも巻き込んだ、日ごろからの問題意識の共有も重要です。たった4年ではありますが、継続することの意義を感じています。



1. 南砺平高校で主権者教育の出前授業を実施。民主主義の成り立ちと県議の仕事の説明
2. 昨年11月の研究大会に登壇。富山県議会の主権者教育の取り組みが全国でも話題に
3. 認知症の行方不明者の命と安全を守るための請願は、昨年11月議会で採択された
4. リクルートの後輩で起業家の麻生要一さんが昨年12月に来県。起業家向けセミナーを実施

藤井だいすけをもっと身近に！

1 セブンリバーズ定期読者の申込は公式サイトから！

藤井大輔県政通信「セブンリバーズ」は年3回～4回程度発行しています。定期読読ご希望の方は、こちらのQRコードもしくはお電話でお申し込みください。

公式サイト：fujiiidaisuke.com
電話：076-471-7119



2 ほぼ毎日更新！公式Twitterのフォローを



藤井大輔の議員活動はもちろん、藤井が気になったニュースや話題をピックアップ。政治からカルチャーから宇宙論まで、幅広くつぶやいています。

公式 Twitter：
https://twitter.com/fujii_toyama



3 県政の独自解説をアップ 公式LINEの登録を！



メモ魔の藤井の議事録や、藤井の独自視点での解説をアップ。リッチメニューから県政通信のセブンリバーズや、オリジナル動画も！

公式 LINE：
<https://lin.ee/AsXqb5A>



藤井大輔（ふじい・だいすけ）プロフィール

1973年（昭和48年）1月19日富山市生まれ。新庄幼稚園、新庄小学校、新庄中学校で育つ。富山中部高校、大阪大学経済学部を経て、95年株式会社リクルートに就職。主に雑誌の編集に携わる。2004年にはフリーマガジン『R25』を創刊し、編集長に。40歳を機に地元・富山に戻り、福祉事業に携わる。社会福祉士の国家資格を持ち、地域包括支援センターの相談員や久遠チョコレート富山店の指導員としても勤務。著書に『R25のつくりかた』（日本経済新聞出版社）、『議員という仕事』（共著・CAP出版）がある。19年4月、富山県議会議員に初当選。現在は、自民党富山県議会議員会で政務調査会副会長を務める。23歳の長男と15歳の長女の父。

藤井大輔へのお問い合わせは
下記までご連絡ください！

藤井大輔事務所
TEL：076-471-7119
FAX：076-471-7129
Email：d-fujii@fujiiidaisuke.com

